キャラクター名
アズミ

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル サラマンダー	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	
オプショナル		年齢	13	性別	♀
覚醒	生誕	衝動	破壊	初期侵食率	38 %
出自	天涯孤独	経験	絶縁	邂逅	そういえば腐れ縁がいた

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	1	2		8
感覚	1	0	0			1
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	37
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	1	1	調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：裏社会		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
えくすとらバーニングパーンチ	白兵	14r+3	4	25		白熱使用後、コンセ＋拳＋爪＋炎神
えくすとらバーニングパーンチ@100	白兵	19r+3	4	28		侵蝕値3＋9。
		0				
スーパーえくすとらバーニングパーンチ	白兵	17r+3	4	25		↑＋トゥルースサイト

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：情報屋	
思い出の一品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
秘密兵器：トゥルースサイト	P	N		
ヤンス	P 遺志	N 悔悟		
岸壱沙	P 感服	N 憐憫		
鬼頭ライ	P オヤブン	N 隔意		
昇華）観光大使	P 同情	N 侮蔑		
ナカタ	P 連帯感	N 嫉妬		
セミゼロちゃん	P 友情	N 隔意		

最大財産P: 4	残り財産P： 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：エグザイル	2	2	メジャー	ー	ー	ー	ー	
効果：C値をーLV								
白熱	10	3	マイナー	至近	自身	自動	ー	
効果：シーン間素手データ変更。攻撃力＋[LV＋5]、ガード値4、命中0								
貪欲なる拳	3	3	メジャー	武器	ー	対決	ー	
効果：み合わせた白兵攻撃のダイス＋[LV＋1]								
爪剣	5	3	メジャー	武器	単体	対決	ー	
効果：攻撃力＋[LV×2]、ドッジの判定ダイスー1個								
餓鬼玉の使い	2	3	オート	視界	単体	自動	ー	
効果：対象がHPダメージを受けた際に使用、ランク3の邪毒を与える。LV回/1シーン。								
死神の爪	1	5	メジャー	ー	ー	対決	リミット	
効果：リアクション不可、カバーリングを行った場合ガードとして扱えない。1回/1シナリオ。								
炎神の怒り	1	3	メジャー	ー	ー	ー	ー	
効果：ダイス＋[LV＋1]、HP3点消費								
異形の歩み	1	ー	常時	至近	自身	自動	ー	
効果：壁は走る場所！								
不燃体	1	ー	常時	至近	自身	自動	ー	
効果：たとえ火の中氷の中でもはしーる！								
物質変化	1	ー	メジャー	至近	自身	自動	ー	
効果：ふっふっふー！オレは一体誰でしょう？！								
効果：								
効果：								
効果：								

「Junky a Ridden」用
あれから3年が経った。あっという間の3年だったと思う。

「いつかオレも親分みたいにつよぉぉぉくなるんだあ！」

物心着いた頃からずっと、世界は荒廃している。だからオレにとっての世界は今も昔もこの姿が正しいものだ。
だから、大人たちが悲観している理由が分からない。
多分これから先もずっと、分かることはないんだろう。
青い空？青い海？それってファンタジーってやつだよね。

親というものを知らない。どうやって生き延びていたのか分からないけど、記憶の中に親は存在していない。
ふらふらとひとりさ迷い、時々奪い、時々追われ、襲ったり隠れたりを繰り返していた数年だ。
生きていることに、生きるため以外の理由はなかった。

そんなある日、雷を操る女性に遭遇した。彼女は数人の子分を引き連れて、この荒れた世界を闊歩していた。
面白そうだと思ったんだ。
仲間がいて、会話をして、じゃれて怒って怒られて、夜は川の字になって眠る。
それってけっこう楽しそうなことじゃん！
だから思わず着いていった。彼女は歓迎してはいなかったけど、拒絶もしていなかった。と思う。
生きていることに、楽しむという理由ができた。

「親分！今日はどいつをシめてやりましょっか！」